

倫 理

社会科標準問題

平成18年度

注意

1. 問題は1から5までであるが、そのうち4題を解答すること。どの4題を解答するかは、学校の指示に従うこと。
 2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に指示通り記入すること。
 3. 所要時間は50分とする。
 4. 解答用紙の選択した(または指定された)問題番号の□に○を記入すること。
-

大阪府高等学校社会（地歴・公民）科研究会

1 次の文章を読み、下の設問に答えよ。

ソクラテスの刑死は、亡命の勧めを退け自ら毒杯をあおぐという劇的なものであった。しかしその罪状は「国家の認める神を認めず、新しい神を信じ、(a) 青年たちを腐敗・墮落させた」こととされ、それは一種の宗教裁判とも言えるものであった。ソクラテスの裁判では、(b) ギリシア人の生き方を支えていた神々を否定することが、青年の腐敗・墮落の原因だとされたのである。もちろん、ソクラテス自身はギリシアの伝統的神々を否定するものではないと弁明している。しかし、その弟子プラトンも（ア）派を通じ、東方のオルフェウス教の影響を強く受けていることが指摘されている。(c) アレクサンドロスの死後、アリストテレスもまた、「国家の認めない神を導入した」という罪状で訴えられた。アリストテレスは、アテネに同じ過ちを2度繰り返させないようにと裁判を避け、その学院（イ）を閉鎖しアテネを去ったという。古代ギリシアにとって、従来考えられている以上に宗教は重要なものであったのである。

さて、宗教的だとされる古代イスラエル人の場合であるが、(d) ユダヤ教の律法の多くは民族の生活習慣を規定するものである。例えば、バターやチーズなどの乳製品と肉を同時に食べてはならないとする律法は、祭儀にその源を持つとしても、そのような食習慣を持つユダヤの民族性と不可分なものとなってゆく。

苦難の歴史のなかユダヤ社会は変化し、律法の遵守が強調されてゆく。そのなかで、ユダヤ教の律法主義を批判したとされるイエスの教えは、そのような律法を守れない人々が、実はユダヤの社会を支えていることを指摘している。イエスは、当時、ユダヤ社会の底辺で生活し、律法を守ることすらおぼつかない人々に対する(e) 救いの手を差し伸べたのである。このように、ユダヤ社会の中の非ユダヤ的要素を暴き出すことで、キリスト教は民族を越えた(f) 世界宗教への道を歩みだしたとされる。しかし、そこにもまた「福音を受け入れる者」とそうでない者の間には、キリスト者としての生活をおくる上で歴然とした違いを見出すことができるだろう。

宗教と生活規範が分かちがたく結びついているのが、(g) イスラームの特徴だといわれる。しかし、イスラームに限らず、宗教とはそもそも日常生活と不可分なのかもしれない。

問1 文中の空欄（ア）・（イ）に入れるのものとして最も適当なものを、それぞれから一つずつ選び番号で答えよ。

- （ア） ① ミレトス ② ピュタゴラス ③ エピクロス ④ エレア
（イ） ① アカデメイア ② ムセイオン ③ スコラ ④ リュケイオン

問2 下線部(a)を説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① ソクラテスは新しい神に基づく真理を説き青年たちを魅了したため、アテネ市民はそれを新しい宗教を作り出したものとみなした。
② 「ソクラテス以上の知者はいない」というデルフォイの神託をソクラテスが否定したため、既存の宗教的権威を踏みにじったとされた。
③ ソクラテスは魂への配慮の大切さを説くことで政治活動への参加を無意味だとしたため、アテネの民主政治を拒絶するものとされた。
④ アテネ市民が当然としていた価値の根拠を問うことで、真の知を求めることの大切さを訴えたため、それまでの価値観を否定するものとされた。

問3 下線部(b)に関連して、古代ギリシアの思想家の神についての思想を説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① ストア学派は、神の理性としてのロゴスが宇宙に秩序を与えており、このロゴスにしたがって生きることが、人間の責務であるとした。
- ② デモクリトスは、「オリュンポスの神々もわれわれ人間と同じ原子で成り立っている」とし、本来神や人間の魂といったものは原子を越えた世界に存在しているとした。
- ③ プロタゴラスは、「万物の尺度は人間である」と主張し、ギリシア人の想定した神々は実は絶対的な神が仮の姿として現れたものであるとした。
- ④ ヘラクレイトスは、「万物は流転する」という言葉で、オリュンポスの神々の間の対立・抗争を幻影だとし、対立を越えた調和の世界こそが永遠の真理であるとした。

問4 下線部(c)に関連して、アリストテレスはアレクサンドロスの家庭教師を勤めたことがあるが、両者の関係についての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① 正義と友愛というポリスの徳を重視するアリストテレスの説は、アレクサンドロスには受け入れられず、彼はポリス社会を崩壊させてしまった。
- ② 調整的正義を配分的正義より重視しすべての正義の根底に置くアリストテレスの正義論は、アレクサンドロスにすべての民族の融和と平等を目指させた。
- ③ 永遠の真実在であるエイダスを求めるテオリア的生活を説くアリストテレスの考えは、現実の政治に興味を示すアレクサンドロスには受け入れられなかった。
- ④ 君主制を理想の政治形態であるとするアリストテレスの政治論は、後世に大王と呼ばれるアレクサンドロスに大きな影響を与えた。

問5 下線部(d)を説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① 律法は神ヤハウエ自身が預言者モーセなどを通じて与えたものであり、その内容は『旧約聖書』などにしるされている。
- ② 律法はすべての民に平等に与えられたが、その契約を守り続けたのはユダヤ民族だけであった。
- ③ 律法は神ヤハウエから一方的に与えられたものであり、それを守ることへの見返りや代価を求めてはならないものである。
- ④ 律法は古代に成文化されたもので、現在のユダヤ教ではそのほとんどが時代遅れで今日では守れないものとして否定されている。

問6 下線部(e)に関連して、次の資料を読み、そこで取税人が義と認められた理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び番号で答えよ。

ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりはファリサイ人で、もうひとりは取税人であった。ファリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。

「神よ。私はほかの人々のようにゆする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。私は週に2度断食をし、自分の受けるものはみな、その10分の1をささげております。」

ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。

「神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。」

あなたがたに言うが、この人のほうが、前の人よりも、義と認められ、家に帰って行きました。
ルカ伝18.9～14

- ① ファリサイ人の祈りの内容の豊富さに比べ、取税人は単純な祈りの言葉しか発していない。単純な祈りの中にしか真実は宿らないと神は考えるからである。
- ② ファリサイ人は心の中で祈っただけであるが、取税人は実際に口に出して神に呼びかけている。他の人々の前で自らの信仰を告白することが大切であるからである。
- ③ 取税人の仕事はユダヤ民族を裏切るものであるが、古いユダヤの神ではなく新しい神が自分たちを救済してくれるからである。
- ④ 取税人は、自らが罪人であることを深く自覚しているが、ファリサイ人は自ら律法を守っていることを誇る気持ちがあるからである。

問7 下線部(f)に関して、キリスト教が世界宗教となる上で大きな役割を担ったのがパウロであるが、彼について述べたものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① 恩寵の光に基づく信仰の真理と自然の光に基づく理性の真理を区別しながらも、信仰の優位のもとに両者を調和させることを試みた。
- ② さまざまな思想的遍歴の末にキリスト教に回心し、人類の歴史を神の国と地の国との抗争として描き、歴史を神の摂理に従った壮大なドラマであるとした。
- ③ イエスの最初の弟子であり、イエスが最も信頼を寄せたとされるが、イエス処刑の日にイエスの弟子であることを否定し、そのことを悔いることになった。
- ④ もとは熱心なユダヤ教徒であったが、キリスト教に回心し、イエスの十字架上的死を人間の原罪を贖うものであるととらえた。

問8 下線部(g)に関連して、イスラームについて述べた文として**適当でないもの**を、次の中から一つ選び番号で答えよ。

- ① ムスリムが日常実践すべき五行は、例外を認めない厳格なものである。
- ② アッラーの像はもちろん、ムハンマドの像すら作ることを固く禁じている。
- ③ ムスリムを日々規定しているシャリーアはその根拠をクルアーンなどに置いている。
- ④ ジハードとしての異教徒との戦いで命を落とした者は、来世での天国を約束される。

2 次の文章を読み、下の設問に答えよ。

昨今、国の内外を問わず、衝撃的な犯罪やテロ事件が多発している。人々の怒りや憎悪がいたるところで燃えさかり、悲惨な事件が引き起こされている。怒りと憎悪は人と人を引き裂くものであるが、その対極には人と人を融和させる思いやりや人間愛がある。思いやりは、現代の社会において、見失われてしまったのだろうか。

春秋戦国時代は古代中国の戦乱の世として知られるが、この時代に現れた諸子百家の中には思いやりを重視する思想がみられる。儒家の祖である孔子は政治社会の混乱は礼の形骸化にあるとみたが、それは人間を人間たらしめる(a) 仁という徳が失われているからであると考えていた。『論語』によれば、仁は「人を愛す」ことであり、「夫子の道は（ 1 ）のみ」といわれるように、この徳の重要な要素として、まごころと思いやりが示されている。また、「[A]」という戒めも思いやりの大切さを表している。孔子の教えは(b) 性善説を説く孟子や性悪説を主張する荀子に継承されていくが、孟子の考え方は国家論にも拡張されて、王道政治という君主の徳に基づく政治のあり方が説かれた。このような儒家の思想に対し、道家には思いやりを徳目として説く考え方はみられない。しかし、道家によれば、人間本来の姿は世俗的世界に存在するさまざまな対立や差別を超越するところにあるとされる。わざわざ思いやりの徳目を説かなくても、(c) 道に則る生き方をしていれば、人と人、あるいは万物の間の対立や差別は取り除かれるのであり、そこに心の自由や魂の安らぎが得られるというのである。

一方、仏教でも思いやりを持つことは大切な教えとされている。「あたかも、母性がそのひとり子をおのが命を賭して守るがごとく、生きとし生けるものの上に、かぎりなき慈しみの思いをそそげ」と仏陀は語る。この言葉から、思いやりすなわち慈悲は [B] ことがわかる。また、このような考え方は、厳しい身分制度と差別を温存する(d) バラモン教の教えに対する批判につながるものであるが、仏陀の悟った世界観である縁起の法と深く関わるものでもある。つまり、私たちがこの世界に生きているということは、自分一人の生命力によるものではなく、さまざまなものに支えられているからだという考え方が慈悲の根底にある。ところで、仏陀によれば、四苦八苦という苦しみは(e) 私たちが世界の真理に無知であるところに由来しているのであり、煩惱から生みだされるものとみなされている。貪（むさぼり）・瞋（怒りや憎しみ）・癡（愚かさ）に代表されるそれは、ものごとく執着するところ、自らの欲望にこだわるところから発する。このような仏陀の教えは、その後、(f) 大乘仏教や上座部仏教などが成立することにより、さまざまな地域文化と接しながらアジア各地に伝えられていく。その過程で仏陀の教えは、各地域に特有な思想と融合し、変容していくこともあったが、慈悲そのものの教えは仏教思想の核心として重視されてきた。

古代中国思想や仏教思想において重視されてきた思いやりの大切さは、現代もさまざまな社会集団の中で教えられている。なぜなら、思いやりは生命の大切さにつながるものだからである。怒りと憎悪が私たちの生命をいともたやすく奪っていく現実を見つめるならば、思いやりのある行為を自ら実践することはきわめて意味のあることではないだろうか。

問1 本文中の（ 1 ）に入れる語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 忠恕 ② 孝悌 ③ 信義 ④ 礼智

問2 本文中の[A]に入れる文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 知るを知るとなし、知らざるを知らずとせよ
② 朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり
③ 君子は和して同ぜず
④ 己の欲せざるところは人に施すことなかれ

問3 本文中の[B]に入れる表現として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 怨念や敵意などの硬直した感情をときほぐす広大無辺な人間愛である
- ② 単に人間に対してだけでなく、すべての衆生に対して向けられている
- ③ 怨念や敵意を愛情によってつつみこむ母のような豊かな生命力をもつ
- ④ 単に子どもの生命だけでなく、多くの大人の生命を救おうとしている

問4 下線部(a)について、『論語』には仁について次のような言葉がある。この言葉の意味として最も適当であるものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

己に克ちて礼に復するを仁となす

- ① 自分のわがままな気持ちを抑制し、他人を大切にしようとする礼儀作法に自分から従うことが人を愛するということである。
- ② 世の中で利己的な行動をとることに比較したら、礼儀作法を学んで人間愛を身につけることの方がずっと容易なことである。
- ③ どのような人にも通用する礼儀作法を身につければ、自分の心の中のわだかまりを整理し、愛情深い人間になることができる。
- ④ 世の中でいつも周囲の人々から愛情を注がれるような生活を望むのであれば、自分のわがままを抑制することが必要である。

問5 下線部(b)について、孟子の性善説あるいは荀子の性悪説について述べた説明文としてその内容が最も適当であるものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人間として為すべきではないことを犯したときに自らを恥じる羞惡の心は、他者に対して真心を尽くす礼という徳の端緒となるものである。
- ② 自分の私的利益のために他人に危害を加えるようとする人間の悪しき行為は、どのような手段や方法をもってしても矯正することはできない。
- ③ 他者の不幸をそのまま見過ごすことができない惻隱の心は、人間に対する親愛の情や敬意の念である仁という徳の端緒となるものである。
- ④ 人間には生まれつき他人を嫉（ねた）み、憎惡する傾向があるので、世の中の秩序を維持するためには、法による規制を強化すべきである。

問6 下線部(c)に関連して、老子や莊子の考え方について述べた説明文としてその内容が最も適当であるものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 老子は道を万物を生みだす根源であるとみなし、この道によってあらゆるものは秩序づけられ、人間世界には徳治政治がもたらされるものと説いた。
- ② 莊子は最もすばらしいものは水であると語り、水のように自由に生き、万物に生命の恵みをあたえ、自ら争うことのない理想的人間像を真人と名づけた。
- ③ 老子の説いた理想社会は小国寡民といわれるが、それは素朴な自給自足の共同体であり、そこでは他国との交易や文化の交流は極力避けられている。
- ④ 莊子の説いた理想社会は万物斉同という性格をもつ差別なき社会であるが、この世界は現実界を超越したところに夢の世界として実現されるものである。

問7 下線部(d)に関連して、バラモン教の教えを哲学的に深めた『ウパニシャッド』には、瞑想によって宇宙の本質と自己の本質が一体化した境地が説かれている。この境地の表現として最も適当であるものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 輪廻転生 ② 涅槃寂静 ③ 六波羅蜜 ④ 梵我一如

問8 下線部(e)について、仏陀の説いた真理について述べた4人の高校生の次の会話文を読み、その発言内容に誤りがある人物を、下の①～④のうちから一つ選べ。

六甲：煩惱とは、例えば失恋した相手にこだわりつづける執着心のようなものね。それを断ち切って穏やかな心をもつには、快樂を求め続けることや、苦行に身をさらすことから離れる必要があるのよ。仏陀の語る中道とはそういう意味じゃないかしら。

生駒：ところで、ドラマなんかで「二人の愛は永遠に」という台詞（セリフ）を耳にするだろ。でも仏陀は、この世に永遠不滅なものなんて存在しないということをはっきりと語っている。四法印という真理の教えの中にある「愛別離苦」がそれさ。

葛城：六甲さんの言う執着心から自由になるには、修行が必要ね。仏陀も八正道という修行方法を語っているわ。ふだんの行いを正しくしようとする正業とか、精神統一をして心を曇らないものにする正定など、日常生活そのものが修行みたいね。

金剛：それとね、生老病死という四苦は、この世に生きるかぎり、だれもまぬがれることはできないんだ。たとえ病気にかかったことがない人でも、家族や親しい人が重病になることがある。苦しみは尽きないことを自覚しておくべきだと思うな。

- ① 六甲 ② 生駒 ③ 葛城 ④ 金剛

問9 下線部(f)について、大乘仏教には利他行を重視しようとする特色があるが、次の記述と最も関係の深い語句を、下の①～④のうちから一つ選べ。

悟りを求め、衆生の救済に努める人

- ① 菩薩 ② 阿羅漢 ③ 般若 ④ 転法輪

問10 本文の趣旨に合致するものとして最も適当であるものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 儒家の思想の特色はまごころや思いやりを徳の重要な要素と考えているところにあり、それは孟子の王道政治や荀子の国家論にも継承されている。
- ② バラモン教を批判した仏陀は、人間の生は厳しい身分制度と差別のために苦悩に満ちたものとなるが、その苦悩は縁起の法を知ることによって解消されると考えていた。
- ③ 道家は、儒家と異なり、思いやりという徳目をことさら重視していないが、道にしたがう人間本来の生き方の中に心の自由や安らぎがあるとみなしている。
- ④ 仏陀の教えは、それが各地に伝播していく過程で、それぞれの地域特有な思想と融合して変容し、煩惱についても多様な解釈が生みだされた。

3 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

現代は、「人間中心主義」によって進められてきた開発の結果としての環境破壊の問題、主に医療技術の進歩によってもたらされた脳死や臓器移植などの生命倫理の問題、核家族化による家族の絆の喪失の問題など多くの問題に直面している。これらの問題の淵源を尋ねると、ヨーロッパ近代に行き着くといわれる。さらに、これらの問題は「思想や哲学の問題」として考えることができる。すなわち、「何が正しいのかという＜真理＞の問題」、「＜真理＞とされたものがどこにおいても、誰においても成り立つかどうかという＜普遍＞の問題」、「われわれとは何かということを認識する＜理性＞の問題」、「そしてわれわれはどこに向かうかという＜理想＞と＜進歩＞の問題」と深くかかわっているということが出来る。

ヨーロッパにおける近代は、広義には(a)ルネッサンスから始まるといわれる。そして、ヨーロッパにおける中世から近代への変化は、思想的には、その考察の中心が（ 1 ）へと移った時代であったと考えることも出来る。この時代には、すべての人間は(b)理性を持っているので、どこに住んでいようが、人間は基本的なところでは同じであるという普遍という考え方を広げた。一方近代を支えてきたのは、産業革命に見られるように「生産第一主義」であるが、この背景には近代科学の考え方、すなわち(c)実証的な方法と(d)力学的な世界観があったといわれている。これらによる近代科学の発展は人々が(e)理想と進歩という考えをさらに推し進める原動力となったと考えることが出来る。しかし20世紀に入ると、真理、普遍、理性、理想と進歩というこれらの考えが否定されたり或いは疑問とされる歴史が続いた。それは、(f)世界を巻き込んだ2回にわたる大戦、その後の世界を対立させた(g)東西の冷戦、世界の各地で起こった地域紛争などに象徴されるといえる。20世紀に起こったこれらの人類規模の問題を如何に捉え、克服するべきかについて多くの思想家、哲学者が取り組んできたといえる。(h)J. P. サルトルや(i)M. フーコーらの営みはまさに理性、道徳、進歩といった考え方を問い直すものであった。

問 1 文中の（ 1 ）に入る最も適当な語句を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① アイデアからロゴス ② 神から人間 ③ 個人から集団 ④ 肉体論から精神論

問 2 下線部(a)のルネッサンス期の人物についての次の文章のうち、正しいものを①～④の中から一つ選べ。

- ① ルネッサンスは人間に対する旺盛な興味をその中心としているが、ボッカチオが書いた『デカメロン』はそのことをよく表しており、エラスムスの『神曲』に対して『人曲』と呼ばれる。
- ② レオナルド＝ダ＝ヴィンチやミケランジェロが万能人の典型といわれるのは、自らの能力を多面的に発揮し、個性を十分に実現したと考えられているからである。
- ③ ピコ＝デラ＝ミランドラは、人間は自由意志を持った存在であるといった。動物のように欲望に流されて墮落することはありません、無限の可能性を実現することが出来ると考えた。
- ④ マキャヴェリの人間に対する旺盛な興味は政治に向けられ、『君主論』を著した。そのなかで、現世の国家統合のためには人間は神の律法を守る必要があることを説いた。

問3 下線部(b)の「理性」についてのそれぞれの記述の中で、最も適当なものを下の①～④の中から一つ選べ。

- ① 近代の哲学はデカルトから始まるといえる。彼の思想は、理性への懐疑を表明した。「われ思うゆえにわれ在り」とはこのことを表している。
- ② 『純粋理性批判』においてフィヒテは、本来の理性の対象である「魂の不滅」「神の存在」「世界の起源」等の問題は解決可能であるといった。
- ③ カントによれば人間の自由とは実践理性の命令する道徳法則に自ら従おうとするところにあり、それが人間の尊厳であると主張した。
- ④ ヘーゲルにおいては、理性は情念とともに精神の原理であり、歴史とは絶対精神の実現の過程であると考えた。

問4 下線部(c)の「実証的な方法」について、個々の事実から出発して一般法則を導き出すという実証的方法と、その方法を確立した思想家との組み合わせで正しいものを下の①～④の中から一つ選べ。

- ① 自然法 デューイ ② 弁証法 ヘーゲル
- ③ 演繹法 デカルト ④ 帰納法 ベーコン

問5 下線部(d)に関連して、「力学的な世界観」確立に大きく貢献したガリレイの次の言葉の()に入る最も適当な単語を下の①～④の中から一つ選べ。

自然の書物は()の言葉で書かれている。

- ① 数学 ② 形而上学 ③ 神 ④ 人間

問6 下線部(e)の「理想」と「進歩」についてのそれぞれの記述について、もっとも適当なものを下の①～④の中から一つ選べ。

- ① デンマークの哲学者キルケゴールは、「不安とは戸口に立つ不気味な客である」と言った。彼は、生きる目標や理想を失った状況を限界状況と呼んだ。
- ② イギリスの生物学者ダーウィンは、進化の過程は何らかの目的に支配されていると主張した。つまり、すべての種の進化の過程は、一つの理想形態を目指しているとした。
- ③ フランスの啓蒙思想家ヴォルテールは、イギリス社会に理想を見いだした。そして、イギリスの議会政治や民主政治を旧体制に支配されたフランスに紹介した。
- ④ ドイツ生まれのマルクスはフランス革命のジャコバン独裁を「徳のテロル」だと評した。歴史を動かすのは、ジャコバン派が実現できなかった個人の徳だけなのである。

問7 下線部(f)に関連して、これらの戦争と思想家との関わりについて述べた記述として**誤っているもの**を下の①～④の中から1つ選べ。

- ① ユダヤ人への迫害を逃れてアメリカに亡命したフランクフルト学派の哲学者アドルノは、『啓蒙の弁証法』の中で、本来啓蒙的な理性が単に自己保存のための道具すなわち技術的理性になってしまっていると主張した。
- ② 20世紀を前にして、ドイツの哲学者ニーチェはヨーロッパが虚無主義的精神の退廃に陥っていると主張し、新たな価値の創造者である超人の思想を説いたが、この思想がナチズムに利用されたと指摘する人もいる。
- ③ ナチスに迫害されたヤスパースは、人間は死や苦悩という限界状況の中で自己の有限性に気づき、超越者としての神と出会うことによって真の自己のあり方に目覚めると主張した。

- ④ 戦争中はナチズムに積極的にかかわったと言われるハイデガーは、戦後は普遍的な真理ではない「私にとって真理であるような真理」を求めるべきだと主張、享樂的な生活を否定し、神を求める宗教的な生き方を貫いた。

問8 下線部(g)に関連して、東西の冷戦は社会主義陣営と資本主義陣営の対立という構図をもつが、東西の冷戦に至るまでにはさまざまな社会主義思想がみられた。これらについて述べた次の①～④の記述のうち、内容が最も適当であるものを一つ選べ。

- ① 初期の社会主義思想家として知られるサン＝シモンは、産業者はあらゆる富の源泉であり、このような人々によって樹立される社会こそが封建体制を打破する新しい平等社会であると考へ、この理想社会をファランジュと命名した。
- ② 資本主義社会の下では生産手段が資本家によって私有されるため、必然的に労働の疎外が生みだされると考えたマルクスは、資本主義が最高に発達した帝国主義段階では、労働者階級の独裁政権を樹立することが必要であると主張した。
- ③ 19世紀末のイギリスでウェッブ夫妻などによって設立されたフェビアン協会は、資本主義の矛盾を議会政治のなかで解決しようという方針をもち、社会保障制度の完備や重要産業の国有化などを具体的な政策として掲げた。
- ④ 20世紀の中国において反帝国主義、反封建主義から社会主義への社会変革の理念を掲げ、二段階革命論を主張した毛沢東は、革命の主体を農民に見いだした社会民主主義とよばれる中国独自の社会主義のあり方を唱えた。

問9 下線部(h)について、J. P. サルトルについての文章のうち、もっとも適当なものを、次の①～④から1つ選べ。

- ① サルトルのいう「実存は本質に先立つ」とは、人間はものとは違はず現実に存在し自分の本質は、その都度の決断によって自らつくっていくという意味である。
- ② 人間はその行動や生き方を選択しうるという意味で自由であるが、自分だけでなく全人類に対して責任を負わなければならない。そういう在り方を彼は「ひと」といった。
- ③ 「存在と無」はサルトルの主著である。これはヘーゲルの立場から存在の問題を問い直し、ニーチェの「虚無主義」を批判したものである。
- ④ サルトルは構造主義哲学者でもある。それは人間の行為を言語学や文化人類学の立場から分解し、その要素間の関係を全体的構造から解明しようとするものである。

問10 下線部(i)について、M. フーコーについての説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 彼は、経済学、哲学を修めて独自の経済倫理を展開している。特に南北問題の解決に強い関心を持ち、途上国の人々の潜在的な可能性を開花させることが必要であると説き、「人間開発」や「人間の安全保障」などの概念を提唱している。
- ② 彼は、政治哲学者として米国の不平等は正のためのさまざまな施策に大きな影響を与えている。その思想のユニークさは誰もが公正な社会制度を選択する原初状態を想定するところにあり、社会契約説を現代に蘇らせたといえることができる。
- ③ 彼は、ニーチェの影響のもと真理の絶対性を否定した。真理はそれぞれの時代の権力構造の中で作られると考えた彼は、それがどのようにして発生し、展開してきたかを探求することに知（哲学）の役割を求めた。
- ④ 彼は、ハイデガーに学んで人間存在の自己中心性を指摘した。その自己中心性が絶対的に自己を超越する「他者」への暴力を生み出すと考えた彼は、他者性の象徴としての＜顔＞に注目して、そのまなざしに答える倫理的責任を強調した。

4 次の文章を読み以下の問に答えなさい。

大阪の街を歩いていると、歴史的な建造物や記念碑としばしば出会う。普段は全く意識しないで通り過ぎていく建物に、古い時代の人々のさまざまな思いが染みついている。

J R天王寺駅を出て北に向かうと、四天王寺にぶつかる。現存する中心伽藍は戦後の建物であるが、ここは(a) 聖徳太子によって建立された古い寺院であり、(b) 古代末期から中世にかけて阿弥陀信仰の一大中心地であった。当時、目の前に難波の海をひかえ、(c) 寺から眺めるとその中心に夕日が沈んでいったという石の鳥居は、極楽浄土の東門にあたると考えられた。この寺は諸国をめぐる念仏聖たちの拠点でもあり、浄土往生の喜びを踊り念仏で表現した（ア）はここへ三度も参籠したという。

四天王寺を出て谷町筋を北に上っていくと、谷町九丁目付近には(d) 新古今和歌集の選者である藤原家隆の墓所や近松門左衛門の墓がある。さらに北に進むと(e) 近松の作品の舞台にもなった「いくたまさん」として知られる生國魂神社がある。近松はそのころ実際にあった事件を題材に取りあげ、商いに失敗し義理に背いた商人と遊女の情死を扱いながら、社会的には敗者であっても深い悩みを抱えた者ほど仏は救うという仏教観を示した。

谷町筋から一筋東にずれて上町筋に移動し、北に向かうと右手空清町には(f) 江戸期の国学者で歌人でもあった契沖の墓のある円珠庵があり、さらに北にあがると観阿弥・世阿弥父子によって大成された能を上演する大槻能楽堂がある。そしてすぐ前方難波宮跡の向こうには大阪城公園が広がっている。大阪城のあった場所はずっと石山本願寺のあったところであり、全国統一をめざした織田信長が一向一揆の拠点となったその石山本願寺を攻め焼き滅ぼした後に、秀吉が大阪城を建てたのである。その名が阿弥陀の誓願をあらわす本願寺とは、親鸞に始まる浄土真宗の寺院である。親鸞は(g) その師法然の愚者往生の教えを深め、悪人をこそ阿弥陀仏は救おうとされると主張して、自力の修行を捨て自らの身をすべて仏にゆだねるという絶対他力の立場をとった。(h) このような信仰をもつ一向宗の徒つまり浄土真宗の門徒たちを相手に戦う武士たちがふだんの敵とは全くちがう戦いを強いられたことは想像に難くない。大阪城の北側を流れる大川にそって西に向かうと淀屋橋に着く。その橋の名が江戸時代の豪商淀屋から取られたように、このあたりには懷徳堂の跡や(i) 適塾の建物などその当時の人たちの活動を示すような遺跡も多い。

こうしてみると、大阪の町は古代の都、信仰の町、商業の町とその姿をかえ明治以降は工業都市として栄えてきた。その時代時代に住みついた庶民の息づかいが今も感じられるこの大阪が、今後どのように変化していくのかは分からないが、ただそこに住民が主役の町としてこれからも続いていくことだけは間違いないだろう。

問1 文中の（ア）に入る人物を、次のうちから一つ選べ。

- ① 蓮如 ② 行基 ③ 一遍 ④ 明恵

問2 下線部(a)に関連して、聖徳太子についての記述として**誤っているもの**を、次のうちから一つ選べ。

- ① 中国から学んだ 儒・仏の思想から「十七条憲法」に代表されるような新しい国家の為政理念を作り上げた。
② 「遣隋使」を派遣し、当時中国で盛んに行われていた密教を取り入れ、鎮護国家の教えとして仏教を積極的に広めた。
③ 仏教思想を深く学び、大乘經典である『法華経』『勝鬘経』『維摩経』の注釈書『三経義疏』を著したといわれている。
④ 天寿国繡帳に残された太子の「世間虚仮唯仏是真」という言葉は、現世利益だけではなく深い仏教理解がうかがえる。

問3 下線部(b)に関して、阿弥陀信仰について述べた文章として適当なものを、次のうちから一つ選べ。

- ① 天台僧の源信が著した『往生要集』は、現世を穢土であるとしてこの世に浄土を建設することをすすめ、それに影響を受けた多くの人のために来迎図や往生伝が書かれた。
- ② 教えがあり修行はおこなえても悟りが得られない末法の到来を信じた貴族たちは不安の中で来世に阿弥陀仏の浄土に生まれることを願い、仏像を作り来迎図を飾った。
- ③ 阿弥陀仏は菩薩であったときいくつかの誓願を立てたが、なかでも念仏を称えた者を必ず極楽に往生させるという念仏往生願が重んじられた。
- ④ 末法の時代であるからこそ禅を代表とする他力易行のさまざまな修行に代わって、もっとも修行の厳しい自力難行の浄土門を選ぶべきだという主張が広まった。

問4 下線部(c)に関して、このように平安時代には仏をまつる寺院と神をまつる神社が同じ場所に併存し、信仰の重複融合が進んだが、このような仏教と神信仰の融合を何というか、適当なものを、次のうちから一つ選べ。

- ① 廃仏毀釈 ② 即身成仏 ③ 神仏習合 ④ 御霊信仰

問5 下線部(d)に関連して、新古今和歌集では次の和歌に見られるように、仏教の影響のもとで陰影や奥行き、余韻を感じさせる独特の美意識が生み出された。このような美意識は何といわれるか、適当な語を次のうちから一つ選べ。

見渡せば花ももみぢもなかりけり浦のとまやのあきの夕ぐれ 藤原定家

- ① 幽玄 ② みやび ③ わび ④ 風流

問6 下線部(e)に関連して、この作品名を次のうちから一つ選べ。

- ① 『奥の細道』 ② 『曾根崎心中』 ③ 『好色一代男』 ④ 『玉勝間』

問7 下線部(f)に関連して、国学者本居宣長の主張として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

- ① 日本人は、古代の純粋な神への信仰に復帰し、天皇を中心とする日本という民族意識に目覚めなければならない。
- ② 日本人は、素朴な高き直き心をもって暮らしていた、古代の自然の道を回復しなければならない。
- ③ 日本人は、無名の人々の文字にならない暮らしや考え方の中に、本当の日本文化を見出さなければならない。
- ④ 日本人は、仏教や儒教が入ってくる以前の、教えなき時代のあるがままの世界を知らなければならない。

問8 下線部(g)に関連して、法然ら鎌倉仏教の開祖たちについての記述として適当なものを、次のうちから一つ選べ。

- ① 煩悩にまみれた人間が自力で浄土に達することなどできないと考えた法然は、往生への唯一の道は、ひたすら心の中に阿弥陀仏のまばゆい姿を思い浮かべてその力にすがることだと説いた。
- ② 『興禅護国論』を著した栄西は、民衆が苦にあえぎ、国家が混迷しているのは、自力

で仏法を知る努力が放棄され、他宗の誤った教えが流布されているからであると考え、法華経への帰依を強調した。

- ③ 阿弥陀仏に救われたいと願うこと以外、いかなることも自力で実現することはできないと考えた親鸞は、この救いへの願望を阿弥陀仏に伝えるために念仏をひたすらとなえることが大切であると説いた。
- ④ 『正法眼蔵』を著した道元は、坐禅の修行やそれにつながる日常的な行為を通して出会うすべてのことがらの中に、仏陀の説いた真実があらわれてくると考え、禅の修行そのもののうちに悟りが開示されていることを強調した。

問9 下線部(h)に関して、下線部のように言えるのはなぜか、以下の文よりその理由として最も適当なものを次のうちから一つ選べ。

- ① 彼らはこの現実の国土がそのまま仏国土となって国家社会ぐるみの救済が実現すると考え、そのためには教えに敵対する者と最後まで戦わなければならないと考えたから。
- ② 阿弥陀仏を信仰する彼らは現実に社会の最下層に位置する人々であり、ここで戦わなければよりよい生活を得ることができなくなると考えていたから。
- ③ 信仰を守ることを命じる絶対的な存在の教えに従って殉教することが、死後の復活を確実にするものであると心から信じ死を恐れなかったから。
- ④ 阿弥陀仏を信じ念仏を唱える人々にとってその死は現世の苦しみを離れ極楽往生する契機となるものであって決して死を恐れなかったから。

問10 下線部(i)に関して、大阪の中之島で生まれ、この適塾で学んだ人物に福澤諭吉がいる。福澤諭吉についての記述として適当なものを、次のうちから一つ選べ。

- ① その著『学問のすすめ』で「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と述べて万人は不可侵の権利を持つと主張した彼は、旧社会の門閥・身分制度を打破しなければならないと主張した。
- ② 「一身独立して一国独立す」と説いた彼は、一人ひとりの独立の気風・精神を育て上げるためには、まず国が率先して西洋の文物を移入し、西洋風の社会制度を日本に確立することが最重要課題であると主張した。
- ③ 日本を文明国にしてかつ富強国にするためには、日常身近な学問としての実学とともに、儒学が強調する窮理の精神を根付かせるための漢学や古典文学といった学問を学ぶことが重要であると主張した。
- ④ 彼は、日本を近代国家にするためには国民の教育が重要だとして慶應義塾を創立、また中江兆民が提唱して設立された明六社に西村茂樹、西周らとともに加わり、啓蒙活動を行い自由民権運動にも影響を与えた。

5 次の文章を読み、下の設問に答えよ。

朝起きて何を着ようか、昼ごはんは何を食べようかなど、私たちの生活は「何を選ぶか」ということをさけて通ることはできない。毎日くりかえされる些細な選択だけでなく、将来どんな仕事につくか、そのために学校の選択科目に何を選ぶかという、人生の節目における切実な選択もある。

このような(a)選択を個人の自由に任されるという状況は自己責任を伴うということでもあり、私たち個人がもつそれぞれの境遇や能力によっては、「歓迎すべき自由」というよりは、(b)「重荷となる自由」であることも事実である。人が選択の自由に満足感を覚えるのは、必ずしも選択肢が多ければ多いほどよいというものではない。あまりに多くの選択肢を与えられることで逆に、「他の選択肢のほうがもっとよかったかもしれない」という不安を呼ぶこともあるからだ。とくに高校卒業後の進路決定のような場合には、職業や進学先についての知識や理解だけでは不十分で、(c)生き方を含めた価値観・興味・能力等についての自己理解と、自分の決定を引き受けるだけの自我の確立が必要である。結果の責任を自ら引き受けなければならない選択を自分ひとりにゆだねられたとき、私たちはおうおうにして「自信」よりも「孤独の不安」の感情におそわれる。しかし、それを克服してはじめて、新たな一步をふみ出し人間的な成長を遂げていくのではないだろうか。

このような個人における自我の確立と自由、個性化の過程における「孤独の不安」の心理は、個人の生涯のみならず、(d)社会の急激な変化に伴って、(e)自分の立場が弱く無力なものになったことに対して不安や恐怖を抱いた社会階層に生じる心理でもあると指摘したのがフロムである。彼は、(f)ファシズムを生んだ社会心理・性格特性を、「孤独の不安からの逃避」の心理として分析した。自己の無力と孤独に陥る精神的な危機は、個人の自立という生涯の大きな節目におこるだけでなく、たとえば第一次大戦後のドイツのように、社会自体が大きな節目・転換期を迎えるときにも生じる精神的危機だというのである。(g)この危機から逃れるために、自分でどうすべきかを考えずに、無意識的に自分よりも強い力に帰属し服従する道を選んでしまう人も、少なくないのである。そして、このような人々は、逆に自分よりも弱いものに対しては、自分への従属を強制するという態度をとるのである。弱い自分に耐えられず自分を無化して強い力に依存してしまうか、自分以外のものを取り込んで（ A ）するか、二つの正反対の局面が見られるにせよ、その根となる要求は同じもので「孤独にたえられないことと、自己自身の弱点から逃れでることである」とフロムは言う。

自分自身の弱さや醜さを、人はどれだけまともに直視できるだろうか。自分を成長させていくためには、自分の弱さを見つめ、他者への従属や（ A ）ではなく他者との（ B ）に、孤独からの克服を見出していききたいものである。それが「積極的な自立と自由」への道であろう。

問1 文章中の（ A ）・（ B ）に入れるのに最も適当な組み合わせを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- | | |
|-------------|-------------|
| ① A：反抗・B：共生 | ② A：抗議・B：連帯 |
| ③ A：寄生・B：共生 | ④ A：支配・B：連帯 |

問2 下線部(a)「自己決定」に関わる生命倫理上の問題について述べた説明で、正しいものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 回復の見込みがないのに生命維持装置をつけて延命させている状態は、人間の尊厳を損なうものであるから、患者の意思を尊重して生命装置を取り外してよいとする「尊厳死」を、日本を含む多くの欧米諸国が法制化している。
- ② 不妊の女性が第三者に代理母として契約し、不妊夫婦の受精卵、または夫の精子によって代わりに妊娠・出産をしてもらう代理母出産は、アメリカでは実施されているが、日本では、夫婦両者の合意があれば不妊夫婦の受精卵をもちいた代理出産のみが認められている。

- ③ 生前に自己の死のありかたについて意思を表明しておくことを「リヴィング・ウィル」と言い、延命治療の拒否や、臓器提供の可否など、本人の自己決定を尊重すべきだとされるが、これについては、生命の質による選別につながるという意見もある。
- ④ 脳死判定後の臓器移植の意志を表示するドナーカードは、15歳以上から使用でき、提供する臓器としない臓器の選択、提供は脳死後か心臓死後の選択はできるが、臓器提供をしないという意味は表明できない。

問3 下線部 (b) に関して、自由を重荷ととらえ「人間は自由の刑に処せられている」と述べた思想家は誰か。最も適当なものを次の①～④から一つ選べ。

- ① キルケゴール ② サルトル ③ ニーチェ ④ カミュ

問4 下線部 (c) に関して、「自己」を無意識の領域にまで広げて探求した心理学者の一人にユングがいる。彼の考え方として、最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。

- ① 神話や昔話などは、科学文明のもとでは合理的説明ができない「迷信」として排斥されてきたが、それらは個人の体験を超えた人間に共通の普遍的無意識が現れたものとして積極的に評価し、一面的な合理主義・科学万能主義を批判した。
- ② 理性が支配・制御すべきものとされてきた本能の領域に目を向け、無意識の部分には、生命体を支える性衝動などの本能的な欲望が蓄えられ、その性衝動が昇華されると、芸術や学問などが創造されたと考えた。
- ③ 欲求不満から生まれる不安や緊張から、無意識のうちに逃避したり抑圧したりして苦悩を解消しようとする防衛機制の働きを意識化し、無意識が遠ざけた苦しみや不安に向き合うことで、その苦悩の原因を合理的に解決しようとする精神分析を提唱した。
- ④ 無意識を性衝動のみに捉える考え方を否定し、自己の深層には神話や宗教とつながる普遍的・象徴的イメージをもつ普遍的無意識があり、それが創造的な文化活動の源泉であるとして、個人的無意識の存在を否定した。

問5 下線部 (d) に関して、現代日本社会の急激な変化について述べた説明として、**適当でないもの**を、次の①～④から一つ選べ。

- ① 日本の高齢化率は増加の一途をたどり、すでに「高齢化社会」から「高齢社会」に達した。「介護保険法」や「育児介護休業法」などが近年施行されているが、介護対策に偏重しない高齢者が生きがいをもって生きられる社会の整備が課題だとされている。
- ② 従来家族が持っていた機能が外部化・縮小し、家族の主要な機能は愛情を育む安らぎの場になりつつあるが、一方で「ドメスティック・バイオレンス」や「児童虐待」などの家庭内の暴力が社会問題化してきた。
- ③ 急激な高齢化と同時に、婚姻率の低下や晩婚化、少子化が進んでいる。このため婚姻・出産・育児のための総合支援計画として「男女共同参画社会基本法」が成立した。
- ④ 1995年の阪神・淡路大震災以降、ボランティアに対する関心が高まり、福祉や環境保護などの分野でも民間非営利団体（NPO）の活動が活発化しており、それを支援する特定非営利活動促進法も制定された。

問6 下線部 (e) に関連して、20世紀の大衆社会に生きる人々に見られる性格特性を「他人指向型」と呼んだのは誰か。最も適当なものを次の①～④から一つ選べ。

- ① オルテガ ② エリクソン ③ マズロー ④ リースマン

① 官僚主義の性格 ② 權威主義の性格
③ 虛無主義の性格 ④ 自己中心の性格

一般の新聞読者に、ある政治的問題についての彼の意見を尋ねてみよ。彼は、多かれ少なかれ正確な記事を、「彼」の意見として答えるであろう。しかも—そしてこれが本質的な点であるが—彼は自分のしゃべっていることが、自分自身の思考の結果であると思込んでいる。もしかかれが小さな共同体で生活しており、そこでは政治的意見は、父から息子へと伝えられているとすれば、「彼自身」の意見は、彼の思い込みとはちがって、厳格な父がつねにもっている権威によって、支配されたものであろう。

フロム『自由からの逃走』（日高六郎訳）

- 問9 本文の内容説明として、最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。

- 倫 15 -